

1 1 3. 診察前検査結果報告所要時間

2019 年度 臨床検査部 診察前検査結果報告時間

	血球数算定	プロトンピン時間	D-ダイマー	生化学検査	尿スクリーニング	尿沈査
目標報告時間	30分以内報告率	45分以内報告率	45分以内報告率	45分以内報告率	20分以内報告率	45分以内報告率
達成目標	95%	90%	90%	80%	80%	85%
4月	94.2%	88.9%	90.5%	83.5%	77.6%	82.6%
5月	92.8%	89.5%	90.5%	82.0%	73.5%	79.1%
6月	94.9%	90.1%	91.1%	84.1%	82.6%	86.3%
7月	94.7%	88.3%	89.6%	81.3%	73.5%	82.4%
8月	94.5%	88.9%	88.3%	84.2%	81.2%	86.4%
9月	93.3%	86.6%	86.7%	85.3%	77.8%	85.6%
10月	95.8%	90.1%	89.1%	82.7%	77.6%	80.6%
11月	94.9%	89.3%	89.4%	82.5%	73.0%	84.5%
12月	93.5%	91.1%	89.2%	82.7%	80.8%	80.9%
1月	96.0%	90.1%	90.3%	80.0%	84.8%	86.7%
2月	93.3%	87.8%	85.2%	60.8%	74.3%	76.8%
3月	91.5%	86.0%	84.9%	74.0%	73.3%	77.8%
年間平均	94.7%	89.7%	88.7%	80.4%	77.5%	82.5%

2017 年度より「採血終了から検査結果報告完了まで（TAT：Turn around Time）の目標時間」を設定し、毎月の集計結果を現場へフィードバックすることで目標達成を促している。目標達成はもとより本来 100%達成が望ましいことは十分承知しているが、測定機器の処理能力を上回る午前中の検体集中や、再検査、検体少量によるマニュアル作業、新人配属時のスピード低下などが原因で、昨年度の集計結果からは目標時間は限界値に近いことが伺われる。検査の精度を落とすことなくスピードを急に改善することは困難であるが、目標値に達しない患者検体も 1 時間以内には報告することで診察待ち時間に影響しないようにできないか、また急な改善は無理でも運用を常時見直していくことで患者待ち時間改善を達成できるよう改善活動を継続して行う。

データ提供 臨床検査部